



馬 耳 東 風

近年海外で活躍する日本人が増えている。本誌でも「海外で活躍する獣医師」のシリーズで12回にわたって掲載された。世界保健機関や国際獣疫事務局等の国際機関での勤務、アメリカの大学での臨床獣医学教育、大使館での勤務、JICAでの技術協力等、苦労話を含めて興味深く読ませてもらった。長期の海外経験のない私には彼らの活躍は眩しく、同じ獣医師として誇らしく感じた次第である。今後も世界に羽ばたく獣医師が輩出することを願っている。

スポーツ界を見れば、サッカー、ゴルフ、バスケット、野球等で日本人選手の話に事欠かない。サッカーではヨーロッパの名門クラブに所属する日本人が多くなり、彼らだけでチームが組めそうな勢いである。それだけ選手層が厚くなったわけで、親善試合であったがブラジルに初勝利を挙げ、今年のワールドカップでの活躍が期待される。選手層の厚さでは女子プロゴルファーも負けていない。一昨年まで日本で活躍した多くの選手がアメリカに渡り(合計12人)、昨年は竹田、山下、西郷、岩井姉妹、畑岡の6選手がツアー優勝を果たした。山下選手は全英女子オープンにも優勝している。彼女らのうち畑岡選手はこれまでアメリカツアーで7勝を挙げているが、往時の岡本選手の17勝までにはまだ遠い。岡本選手の時代はただ一人の日本人だったと思うが、今や多くの日本人選手がいるので受けるプレッシャーが少ないのではなかろうか。これに対して男子プロはアメリカで5人がプレーしているが、優勝は松山選手一人である。松山選手は2021年にマスターズチャンピオンになり、ツアー11勝を挙げており、再度メジャーで優勝してもらいたい

ものである。

しかし、何と言ってもドジャースの大谷選手の活躍は目を見張るものがある。ホームランは自己最多の55本(リーグ2位)、得点とOPS(出塁率+長打率)はリーグ1位、そして二刀流の復活で14試合に投げ1勝だけだが勝ち投手にもなった。これらの成績で3年連続4回目のMVPに輝いた。ポストシーズンでの活躍も止まらず、17試合でホームラン8本、出塁率は4割を超え、投げては4試合に登板し2勝1敗の成績を残した。特にワールドシリーズ第3戦では4打数4安打(うちホームラン2本)、敬遠4個を含む5四球と大活躍であった。AP通信は、「今年の男性アスリート」に大谷選手を選んだ。3年連続4度目の受賞であり、野球界では最多となり、ゴルフのタイガーウッズ選手と並んだとのこと。大谷選手の活躍が目立つが、山本投手もワールドシリーズで3勝を挙げMVPを受賞、佐々木投手もリリーフで自責点なしの2セーブを挙げる活躍をした。大リーグの放映時間が午前中であり、現役の皆さんには申し訳ないが退職している私は毎日見ることができる。しかも大谷選手はDHで毎試合に出場しているので、ほぼ全試合テレビ観戦し、ホームランやヒットを打つたびに拍手している。一緒に見ている妻は、ドジャースの選手をほぼ覚えており、リリーフ陣が不調だった時期には監督の采配に文句を付けたりしながら観戦していた。

今年は20カ国が参加するWBCの開催年である。日本代表としてメジャーリーグで活躍しているどの選手が出場するのか、そして2回連続のチャンピオンになれるかなど話題に事欠かなく、日本の活躍に大いに期待したいものである。(平)